

アクシデント・レポート(事故報告書)

【レポート作成の趣旨】

- 1.発生した事故について当事者がその経過を振り返り原因を確認することにより、今後の再発を防止する。
- 2.地域ボート協会を通じて日本ボート協会に報告し、日本ボート協会は報告内容を整理・分析して公開することにより、全国のボート団体が貴重な事故体験を共有し、事故防止に役立てることができる。なお、事故情報公開にあたっては地域協会名、団体名、事故当事者名などは原則として全て匿名とする。
- 3.日本ボート協会においては、報告された事故情報によりボート事故発生の状況を把握し安全についてのルール見直しやマニュアル改訂の資料とする。

【報告の対象となる事故】

- 1.陸上、水上を問わず、漕手や舵手が負傷した事故。
- 2.水上において、他艇や他物との衝突により艇本体やリガーが破損した事故。
- 3.風雨、波などにより、艇が沈没した事故。
- 4.損害の有無にかかわらず、外部の救助を仰いだ事故。

【報告要領】

: 必須項目

報告者	団体名・役職: ●●大学漕艇部・副将	住所: 〒454-0944 愛知県名古屋市中川区 ●●大学漕艇部合宿所
	氏名: ●●●● (フリガナ)	電話: (E-メール:
発生日	2021年 08月 11日(水曜日) <input type="checkbox"/> 午前/ <input checked="" type="checkbox"/> 午後 06時 30分(<input checked="" type="checkbox"/> 頃 <input type="checkbox"/> 確定)	
発生の場所	水域名: ●●大学漕艇部艇庫増築艇庫1階 詳細な位置(庄内川 付近)	<input type="checkbox"/> 人工コース <input type="checkbox"/> 河川 <input type="checkbox"/> 湖沼・ダム <input type="checkbox"/> 港 <input type="checkbox"/> 沿岸 <input checked="" type="checkbox"/> 艇庫
気象・水象	気温: 30 °C	天候: 曇り
	水温: °C	風向・風速:
	湿度: 50~55% (湿度、気温は後日確認)	視界: <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良(約 m)
	潮位等:	流向・流速:
		水質: <input type="checkbox"/> 清 <input type="checkbox"/> 濁
行事	<input type="checkbox"/> 通常練習中 <input type="checkbox"/> 大会中(大会名:) <input checked="" type="checkbox"/> その他:エルゴ練習中	
署名	クラブ責任者 20 年 月 日	安全責任者 20 年 月 日
送付確認	<input type="checkbox"/> 報告者 →地域ボート協会(担当者:) 月 日送付 <input type="checkbox"/> 直接/ <input type="checkbox"/> 郵送/ <input type="checkbox"/> FAX/ <input type="checkbox"/> Eメール <input type="checkbox"/> 地域RA→日本ボート協会(担当者:) 月 日送付 <input type="checkbox"/> 直接/ <input type="checkbox"/> 郵送/ <input type="checkbox"/> FAX/ <input type="checkbox"/> Eメール	

関係艇	所属団体名	艇種	クルー構成(学年、性別、氏名等)	
	A	●●大学漕艇部	エルゴ	●●●●、学部1年生、男
B				
関係者・目撃者	所属団体	役職	氏名	関係
	●●大学漕艇部	学生コーチ	●●●●	<input checked="" type="checkbox"/> 救助 <input checked="" type="checkbox"/> 目撃 <input type="checkbox"/> その他
	●●大学漕艇部	学生コーチ	●●●●	<input checked="" type="checkbox"/> 救助 <input checked="" type="checkbox"/> 目撃 <input type="checkbox"/> その他
状況	時刻	状況(時系列に沿い、「客観的事実」「推定」を判別して記載。被害については次項に記載)		
	16:00	練習のため艇庫に集合。		
発生前	18:00前	エルゴで2000m×4(SR: 20、1本MAX、UT)のインターバルトレーニングをセット間レスト1分で行った。(全体所有時間約40分未満)		
発生時	18:30頃	トレーニング終了後、部員1名が床に寝転がる。呼吸の乱れ、手足の運動障害が確認された。これらの状況から、熱中症が疑われた。		
	18:30頃	意識があることを確認。冷やしていた経口補水液を飲ませ、製氷機の氷で体を冷やすなどの緊急対応を行った。		
事後処置対応	18:45頃	近隣のはしもと内科クリニック(URL: http://www.hashimotonaika.net/)に部員の車で搬送し、点滴処置をしてもらった。点滴後には、ある程度会話ができる状態までに回復。当該部員の携帯を借りて、保護者に連絡。		
	19:45頃	クリニックの医師の勧めで、総合病院(名古屋共立病院、URL: https://www.kaikou.or.jp/kyoritsu/)まで救急車で搬送(部員が付き添いで同乗)。総合病院でさらに点滴処置をしてもらった。当該部員の話では、総合病院についたころにはだいぶ回復したとのこと。医師の診断はなかったが、熱中症(レベル1;3段階のうち最も軽い症状)を発症していたのではないかとの見解。]		
	21:00	当該部員の判断で退院。一人暮らしのため、同期部員および新人コーチが寝泊まりする艇庫で一晩宿泊後、翌朝、自分で帰宅。現在、日常生活に支障はない。1週間半後、練習に合流。		
人的損害	シート	氏名	負傷状況	事後処置(<input checked="" type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 予定)
		●●●●	熱中症の症状発症	緊急処置後、病院で点滴を打つ
物的損傷	対象物	損傷状況		事後処置(<input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 予定)
参考情報	練習環境: エルゴメーター5台、扇風機4台。入口シャッター、反対側の窓と戸を開放。当日の18時の市内の気温は30℃、湿度は50%、18時半では気温30℃、湿度~55%(湿度については後に確認; http://ilex.in-addr.jp/ より)。 トレーニング経験: 上記トレーニングについては3セットまでは、経験有。4セットは初めて。 水分補給: 各自で給水用ボトルを用意、レストごとに給水。当該部員はスポーツドリンクではなく、水のみ飲んでた。			添付資料 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり↓ (種類、合計 枚)
	短期的措置(1~6ヶ月以内。応急的対策) ・練習の集合時間を16時→17時に変更(暑い時間帯を避けるため)。 ・クーラーが設置されている合宿所の1階でエルゴを引く(練習環境改善)。			

対策・
計画

- 中・長期的措置(6ヶ月以上、基本的対策)
- ・補給する水分を水ではなくスポーツドリンクに指定する(用意できない場合は部活側で用意)。
- ・次回のモーションを中止し、熱中症に対する勉強会を開催し、部員の熱中症に対する意識を高めた。
- ・クーラーが設置されていない部屋では温度・湿度計を設置し、随時温度+湿度を確認する。
→熱中症セルフチェック(<https://www.netsuzero.jp/selfcheck>)のホームページに温度+湿度を記入し、メニューの強度をホームページのチェック結果を参考に設定する。
- ・部員に当番制で名古屋市のWBGT指数と予報の推移を確認してもらい、練習の集合時に部員へ共有。
 - 危険レベル:原則外での練習を中止。クーラーが設置されている室内のみで練習実施。
 - 嚴重警戒レベル:原則陸トレはクーラーが設置されている室内で実施。乗艇の場合は軽度なテクニカルローイングのみ行い、防止の着用を必須にする。
 - 警戒レベル:クーラーがない室内での練習を極力避ける。実施する場合は温度・湿度計とセルフチェックのホームページを使い、強度を調整する。乗艇の場合もセルフチェックのホームページを使い強度を調整する。
 - 注意レベル:セルフチェックのホームページを使い、練習郷土の調整を行う。

1年後評価: 良 否
(提出時記入不要)

【現場見取り図】

練習場の様子:



間取り図:

